厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）　【資料5】
「新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究」班
分担研究報告書

研究分担者　宮川昭二　　国立感染症研究所　国際協力室

研究要旨　海外、特に近隣のアジア各国との連携協力及び同地域の感染症研究機関間との関係構築、更に感染症研究に携わる専門家間の密接な協力は、我が国への新たな感染症の侵入防止のみならず、侵入時の対応においても極めて重要である。国立感染症研究所では、新型インフルエンザをはじめ重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などへの対応において、アジア地域の研究機関との連携協力により病原性解析や診断法開発などで大きな成果があげられてきた。アジア地域各国の感染症研究機関での活動について情報収集を行い、感染研との連携協力体制の推進及び我が国の新興再興感染症対策に役立てた。

A. 研究目的

国立感染症研究所では、中国、韓国等アジア周辺国の感染症研究機関との間で、研究協力に関する覚書を締結し、新興再興感染症などの研究協力、人材育成、情報共有など我が国の感染症対策の推進に役立つよう連携協力体制の構築を進めている。

本研究の目的は、我が国の新興再興感染症対策に資するため、アジア周辺国における感染症研究機関との連携協力を推進する上で必要な情報収集を図るとともに、新興再興感染症対策に役立てるものである。

B. 研究方法

1. 情報収集等

2014年5月にスイス・ジュネーブ市及びフランス・パリ市を訪問し、世界保健機関(WHO)食品安全・人獣共通感染症部(Department of Food Safety and Zoonosis, WHO)及びパスツール研究所本部を訪問した。WHO では、細菌感染症など食品安全及び人獣感染症分野での最近の課題等や薬剤耐性などWHO総会での議論について情報交換と意見交換を行った。また、パスツール研究所本部では、Christian Brechot 所長ほか幹部と面会し、2008年に締結したMOUのフォローアップなどについて意見交換を行った。

2014年7月にベトナム・ホーチミン市を訪問し、ホーチミン・パスツール研究所（Pasteur Institute Ho Chi Minh City）及びホーチミン熱帯病病院(Tropical Diseases Hospital Ho Chi Minh City)を訪問した。ホーチミン・パスツール研究所では、Van Gao 副所長と面会し、共同研究等の国際ネットワークや感染研との連携・協力などについて情報交換及び意見交換を行った。

2014年8月にフィリピン・マニラ市を訪問し、WHO西太平洋地域事務局(WHO Western Pacific Regional Office(WPRO))及びフィリピン保健省熱帯病研究所(Research Institute of Tropical Medicine(RITM)を訪問した。WPRO では事業総括部田中調整官と WPRO における新興再興感染症対策等について幅広く意見交換等を行った。RITM においては、Lupisan 所長等幹部に面会し、感染研との連携・協力などについて意見交換した。また東北大学 RITM 新興・再興感染症共同研究センターに齋藤先生を訪ね、RITM での東北大学の共同研究活動などについ

て情報収集するとともに、同センターを活用した感染研との連携･協力について意見交換等を行った。

また、2014年6月に都内で開催された衛生微生物技術協議会研究会に参加し、地方衛生研究所とのネットワークなどでの新興再興感染症に関する情報収集等の状況を調べた。

2. 国際的な連携

2014年6月にシンガポールで開催された”ASEAN plus Three Partnership Laboratories for Communicable Diseases(APL)”の”National Laboratories Contact Persons Meeting (NLCP)に参加した。同会議では、ASEAN Plus Three保健大臣会合などからのマンデートを踏まえ、2015年までの活動計画について審議し取りまとめた。同会議を通じ、感染研からの ASEAN 各国の感染症研究機関への貢献のほか、新興･再興感染症対策などについて、各国研究機関からの参加者と情報交換及び意見交換を行った。

C. 研究結果

1. アジア各国等との連携協力

ホーチミン・パスツール研究所では、ベトナム南部における感染症の現状について、ハノイを中心とした北部とホーチミンを中心とした南部で大きく異なり、パスツール研究所は南部２０省を中心に疫学調査やラボ診断を行うことに加え、基礎研究やワクチン開発など多岐にわたる活動を行っていること、加えて、パスツール研究所としてのネットワークを活用し感染症や薬剤耐性などの分野での研究調査や人材育成、地元医科大学等との連携による博士課程など学生の教育を行っていること、国際連携・協力では、フランス・パスツール研究所のほか米国、豪州などとの協力を進めているが、感染研には寄生虫や真菌などで専門家間の協力を期待したい旨が示された。

フィリピン熱帯病研究所(RITM)では、同研究所での新興再興感染症に関する研究等の状況 について情報収集を行うとともに、国際協力等について意見交換を行うとともに、感染研からの専門家の協力により立ち上げられたエボラ出血熱に関する試験研 及び狂犬病に関する試験検査等の実施状況を見学した。

衛生微生物技術協議会研究会では、国立感染症研究所と地方衛生研究所の既存のネットワークが、国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力の推進に役だっていることが確認出来たほか、海外での新興再興感染症に関する情報等が地方衛生研究所での活動にも活用出来ることが認められた。

2. 国際的な評価

WHO 食品安全･人獣共通感染症部訪問では、感染研が行う感染症や薬剤耐性などの分野での行う研究事業について、食品安全や人獣共通感染症などでＷＨＯが行う対策などに、専門家派遣や専門知見の提供などの形で貢献することを期待している旨の発言があった。またパスツール研究所 Brechot 所長は、2014年9月に感染研を訪問した際に、単に既知の感染症分野での協力のみならずガンなど先端的な研究分野での感染研との共同研究、連携や協力を期待し、MOU を踏まえた定期的な会合を2015年にも開催したいとの意向を示した。

ASEAN Plus Three Partnership Laboratories for Communicable Diseases (APL)では、ラオス、タイなどから参加した感染症研究機関幹部から、感染研のこれまでの貢献に感謝するとともに、同地域での更なる連携･協力について期待することとが示された。

国立感染症研究所と各国研究機関との連携協力体制は進展しており、これらの活動及び成果はカウンターパートである各国研究機関のみならず、WHO、米国ＣＤＣ等の感染症対策機関等から高く評価されており、引き続きアジア地域

などでの感染症対策推進への貢献が期待されていることが確認出来た。

D、E. 考察と結論

国立感染症研究所が、国内での感染症対策のため取り組んでいる研究等の成果を海外の研究機関等と共有し、また海外での研究機関との連携や協力を実践することは、感染症対策における国際貢献が図れるのみならず、迅速な事態把握や早期対応などにより我が国への侵入防止や国内での対策構築など早急な対応が図られることとなる。

新たな感染症の発生・流行などに際しては、サーベイランス及びラボ機能のほか情報解析と関係機関間でのコミュニケーションなどが重要であり、各国感染症研究機関との持続的な関係を構築するためには、専門家間での交流などに加え、国立感染症研究所と各国研究機関が公的な関係を構築し定期的な活動を行うことが大切である。

今回の研究では、フィリピンRITM、ホーチミン・パスツール研究所などと新たな連携・協力関係構築の機会を得ることが出来たほか、MOU を締結するパスツール研究所とも連携・協力等の関係強化などを行うことが出来た。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

特記事項なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

特許取得

特記事項なし

実用新案登録

特記事項なし

その他

特記事項なし